

キャンパスライフを緑とともに

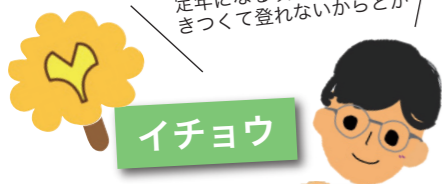
静岡キャンパスは日本一の高低差のあるキャンパスと言われています。正門から人文社会科学部棟の最上階では約100メートルも高低差があり、急いでいても走ることは諦めるほど。しかし、そんなキャンパスゆえ多様な植物を見ることができます。そこにはそれぞれの木々の歴史、知られざるエピソードが……。日本一の富士山や駿河湾を見ることができるキャンパスを巡りました。



ソテツ

静大の
パワースポット!?

通常は九州までの暖かい地域にしか生えない。このソテツは特に手を加えなくても越冬できる強くて不思議なソテツ。



イチョウ

「定年坂」の由来は……定年になる頃には坂がきつくて登れないからとか。

秋には定年坂をギンナンが転がる。静岡キャンパス建設時に先生が静岡大の発展を願って東京大学から持ち込んだとか。



2人の先生に聞いてみた!!

徳岡徹先生
(理学部)

数か月前に構内で「マツバラ」を発見しました。絶滅危惧種で大変貴重なものです。もしキャンパスで見かけた場合は大切にしてください。貴重な「ハンカチノキ」も以前は生えていました。残念ながら今はなくなりましたが、構内を巡ると貴重な植物に出会えるかもしれません。静岡キャンパスでぜひ見てほしいものは「ソテツ」です。

マツバラ▶

天野豊己先生
(理学部)

静岡大のキャンパスは、実は植物の宝庫です。正門～教育学部棟の下あたりまでは都会の植物、教育学部棟～人文社会科学部棟あたりでは山の植物を観察することができます。植物の名前を調べるのは大変ですが、花を見て図鑑を調べると結構分かります。道ばたの花々を1年かけてゆっくり調べて行くと、次の年にはきっとたくさんの植物の名前が分かるようになっていくと思いますよ。



第二食堂前は
季節が早く進む!?

取材した1月にも第二食堂前には、春に開花するハルジオンが元気に咲いていた。ちょうどそこには食堂の換気扇が! 換気扇からの暖かい風がその周辺の季節を早めているよう。



多くの小学生たちが
構内を歩き回る

キャンパス内にはマテバシイやスダジイ、シラカシといったどんぐりの木がたくさん生えている。10月～11月頃になると小学校、幼稚園、保育園の子供たちがどんぐり拾いに訪れる。(要申し込み)



CHECK!

サクラ

人文棟からは
富士山や駿河湾も
一望できる♪



大学前のバス停横には
2月に河津桜が咲くよ!

サッカー・ラグビー場前のサクラは一齐に咲く。理学部棟前のサクラは3種ほどあり、満開の時期が違う。2月～4月頃まで、静岡キャンパスでは長い期間サクラが楽しめる。

浜松キャンパス
白薔薇の生垣に歴史あり

1922年静岡大学の前身校の1つである旧制浜松高等工業学校が創設された。初代校長の関口壮吉先生は、教育は美しい環境で行いたいとの思いから、学校に塀を作らず白薔薇(関口バラ)を生垣とした。2022年に浜松高等工業学校が設立100周年を迎えることを記念し、浜松キャンパスの正門付近を当時と同じように関口バラでいっぱいしようという計画が進んでいる。浜松市立高校(浜松高等工業学校跡地)で現在も花を咲かせていることから、2016年に市立高校から関口バラの苗木をいただき正門に植えた。現在も正門で関口バラが楽しめる。



↓現在の関口バラ

↑1940年関口バラ



静岡大学

植物マニアの皆さんは、こちらに半透明の赤いシートを当てて浮かび上がる名前の植物も探してみてください!...



暗記用に使うシートだよ

編集後記

キャンパス内には多種多様な植物が生えています。静岡キャンパスを訪れた方は、高低差のあるキャンパスならではの植物観察もぜひ楽しんでみてください。いい運動にもなりますよ。

企画・作成・イラスト: 広報学生委員会

石原 健・宮澤かれん
田口実花子・千頭和良彰
新井璃子・大野ほのか・武田葉奈

